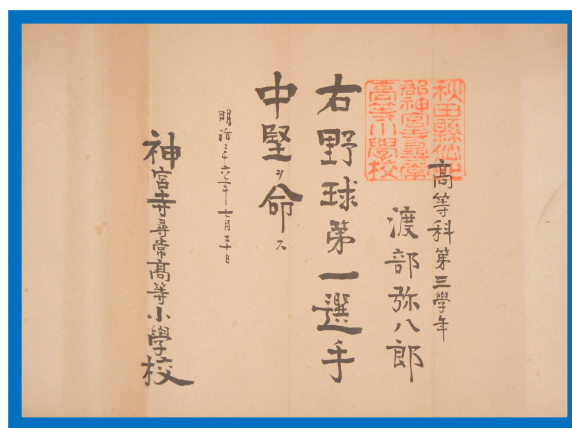


④県内でも有数の野球の盛んなまち神岡に野球が初めて伝わったのは明治35年。東京で野球の知識と技能を身につけた富樫武治さんが神宮寺尋常高等小学校に着任したことに始まります。翌年明治36に富樫さんが学校教育の一環として生徒に「選手任命状」を授与。これが秋田県の少年野球の始まりになったと言われており、これを受け取った少年達は、歓喜と興奮で顔を紅潮させたそうです。その後、神岡の野球少年達、そしてそれを支える地域の情熱は、現在の少年野球や学童野球の発展、全県500歳野球大会の普及へと繋がっていきました。合併により、大仙市となってもその情熱は受け継がれ、全国500歳野球大会が開催されるなど更なる進化と発展を続けています。



④ 選手任命状（嶽の球史館で展示）④



昭和54年に産声を上げた全県500歳野球大会

（※昭和54年第1回大会：8チーム、平成27年第37回大会：最多184チーム出場）



選手任命状と野球少年達

④県内野球関係者や全県500歳野球大会参加チーム・選手をはじめ、県内外の野球愛好家、学校や企業など野球を通じて培われた「球縁」によって、少年野球や500歳野球、プロ・アマを問わず貴重な野球道具や歴史的な資料が集められ、大切な想いとともにも増え続けています。



④「また、来るね♪」、「凄く充実していてビックリ!!」、「今度は家族一緒に来たいです♪」同じ試合や同じスコアが無いように、その時々で感じ方が変化したり、新たな発見をしたりできるのも醍醐味の一つ。回を重ねて頂く度に、「少年野球発祥の地」「500歳野球」などが球縁となり、お一人お一人にとっての「ホーム」の一つへと繋がっていくことを願っています。